

長野県松本市

IMAIKITAKŌCHI

今井北耕地遺跡Ⅱ

— 緊急発掘調査報告書 —

1998.3

松本市教育委員会

例 言

- 1.本書は平成8年5月13日から6月19日にわたって実施された、松本市今井に所在する今井北耕地遺跡第2次調査の緊急発掘調査報告書である。
- 2.本調査は単車道路改良事業（松本空港関連）一般県道松本平広域公園線築造工事に伴う緊急発掘調査であり、長野県松本建設事務所より松本市が委託を受け、松本市から再委託を受けた（財）松本市教育文化振興財団・松本市立考古博物館が実施し、業務委託及び再委託にかかる事務処理については松本市教育委員会が行った。本書の作成は、平成9年度松本市教育委員会が行った。
- 3.本書の執筆は、Ⅰ：事務局、Ⅱ-1：太田守夫、その他の執筆および編集作業を村田昇司が行った。
- 4.本書作成にあたっての作業分担は以下の通りである。
遺物洗浄・復原：上條尚美、堤加代子、丸山恵子、村山牧枝
遺構図整理：石合英子、丸山恵子
トレース：開嶋八重子
組版：石合英子
写真：宮島洋一（遺物）、村田昇司（遺構）
- 5.出土遺物・図面・写真類は、松本市教育委員会が、松本市立考古博物館（〒390-0823 長野県松本市大字中山3738-1 TEL0263-86-4710）において保管している。

目 次

I. 調査の経過	
1. 調査経緯	3
2. 調査体制	3
II. 遺跡の位置と環境	
1. 地理的環境	4
2. 歴史的環境	6
III. 調査の結果	
1. 調査の概要	8
2. 遺構	10
3. 遺物	11
IV. 調査のまとめ	11
図版	12

I. 調査の経過

1. 調査経緯

今井北耕地遺跡のある今井地区は、これまで本格的な発掘調査自体あまり行われていない地区であったが、昭和46年に調査が行われたこぶし畑遺跡や、平成7年9月に調査が行われた今井北耕地遺跡第1次調査の結果、あるいは古くから所々で採集されていた遺物などから、地区の一部に縄紋・弥生・奈良・平安時代の遺跡の存在を窺わせていた。そうしたなか、平成7年、遺跡地に県単道路改良事業が計画され、工事に先立ち同年12月、松本市教育委員会が工事予定地の試掘調査を実施、後世の攪乱を受けていない良好な面と遺構が認められた。これを受けて、長野県松本建設事務所と松本市教育委員会が遺跡保護について協議を行い、事前に緊急発掘調査を実施、記録保存を図ることになった。長野県松本建設事務所より委託を受けた松本市は(財)松本市教育文化振興財団に本調査を委託し、財団では考古博物館が現地の調査、遺物の整理にあたることとなった。また、その間の調査の届け出・委託・再委託に関わる事務処理については松本市教育委員会が行った。尚、本書の作成は、平成9年度に松本市教育委員会が行った。

2. 調査体制

調査団長	守屋立秋(松本市教育長)
調査担当者	高桑俊雄、村田昇司
調査員	太田守夫
協力者	青木雅志、浅井信興、浅輪敬二、五十嵐周子、石合英子、石井脩二、市場茂男、白井秀明、大月八十喜、関嶋八重子、上條尚美、上條道代、神田栄次、小松正子、鷲見昇司、竹平悦子、田多井亘、堤加代子、中村安雄、林武佐、丸山恵子、村山牧枝、壺国成、百瀬二三子、百瀬義友、横山清、米山禎興

事務局(平成8年度)

松本市教育委員会 岩淵世紀(文化課長)、熊谷康治(文化財係長)、田多井用章
(財)松本市教育文化振興財団
事務局:大池光(事務局長)、手塚英男(局次長)、川窪茂(次長補佐)
考古博物館:村田正幸(館長)、松澤憲一、近藤潔、川上真澄

事務局(平成9年度)

松本市教育委員会 木下雅文(文化課長)、熊谷康治(文化課長補佐)、村田正幸(文化財担当係長)、
近藤潔、田多井用章、川上真澄

II. 遺跡の位置と環境

1. 地理的環境

(1) 位置と地形

今井北耕地遺跡2次調査地点は、松本市大字今井北耕地集落の東北東500m、県松本運動公園の西側に位置する。道路の新設・改修により、土地利用が変更されたところである。以前は針葉・広葉樹林域と桑畑・普通畑であったが、現在はりんごの栽培地となっていた。地形上は、今井地区を北流する鎖川の右岸の広大な扇状地性氾濫原上に位置する。鎖川現河床との距離1kmで、標高660m、北耕地遺跡1次調査地点の下流域にあたる。地形面の平均傾斜は20/1000である。鎖川の赤坂橋一野尻橋付近を氾濫口とする沖積扇状地性の堆積で、一般に土壌は砂礫の混じることが多く、耕土の厚さは30~40cmの砂壤土で、その下はすぐに礫層になっている。たまたま砂礫層（河床礫）に介在する土層に、厚さ70cmに達するものもある。

(2) 地層と堆積

この地域の堆積層は、鎖川（中・古生層系統）による砂質土・砂質粘土（ローム質）と大・中・細礫河床礫（円礫）からなっている。礫の種類は硬砂岩・砂岩が最も多く径も大きい。チャートは10cm内外、粘板岩は細礫になっている。このような土壌や礫が地層（土層）としてみられるが、堆積断面は単純である。発掘地の礫層は表土（耕土）の下の厚い河床礫層と基底の河床礫層からなる。表土下の河床礫層の間には土層が介在し、典型的な氾濫原の堆積を示す。この礫層の流れの跡と考えられる規模の大きなものから、氾濫と見られるものまでであるが、堆積（流れ）の方向は、現河床の南北性に対し、南西~北東性（ $N60^{\circ} \sim 70^{\circ} E$ ）を示している。基底の礫層も恐らく一時階前の堆積層と見られるが、現在の発掘状況からその堆積状況は読めない。

発掘地の各地のうち、第3・4・5調査区は近接していて、堆積には並行（一部連続）が見られる。第1・2調査区は第3・4・5調査区と数十m北西へ離れているため、直接の関係を持たないが、堆積の方向は同じである。一般的な土層は①表土30cm（灰色・畑・林野）②新しい河床礫層20cm~30cm③灰色砂質礫層り土層40cm④黄褐色礫混じり土層40cm⑤礫層（基底層、巨・大・中礫）からなっている。

＜第1調査区と第2区調査区の堆積＞ 前述のように第1・2調査区は他地区（第3・4・5調査区）と離れて位置し、その上発掘面積が小規模である。第1調査区には目立った砂礫層はなく、一部に土層の深いところがあるが、表土25cm、褐色土25cmの下は、35cmの大・中・細礫混じりの砂礫層からなっている。第2調査区には2条の砂礫（ $N30^{\circ} E$ ）が走り、その間は礫混じり灰色砂質土、外側はいずれも褐色土層であるが、北側は厚くやや窪地になっている。また周辺のりんご園の植栽は $N30^{\circ} \sim 40^{\circ} E$ で、砂礫層・土層の方向を巧みに利用している。第1区の南北性、第2区の東南~北西性の発掘面は上記の2条の砂礫層やこの植栽の方向を切っているといえる。

＜第3・4・5調査区の堆積＞ 第3・4・5調査区は、この順序でほぼ南北（ $N30^{\circ} E$ ）に並んでいる。従ってこの場所の堆積層の方向（ $N60^{\circ} \sim 70^{\circ} E$ ）を $30^{\circ} \sim 40^{\circ}$ に切った位置にある。

第3調査区は、北東を頂点とするほぼ直角三角形（斜辺南西側 $N30^{\circ} W$ 、底辺北側 $N70^{\circ} W$ 、高さ東側 $N15^{\circ} E$ ）をしている。顕著な河床礫層は斜辺に当たる南西側の中央へ $N70^{\circ} E$ の方向から流入し、発掘地の中央に至っている。その後、第4・5調査区では見られない蛇行を始め（S-N、 $N40^{\circ} W$ 、最大幅80cm）、西北部を経て第4調査区との間、未発掘地（幅10m）の中へ消えている。この河床礫層を除く、南・東・北部には厚い褐色土（ローム質土）の堆積が見られ、特に南部では表土（砂混り灰色土30cm）を除き60cmにも達する。（挿図3）第4調査区は、南西を頂点とするほぼ直角三角形（斜辺北側E~W、底辺東側 $N50^{\circ} E$ 、高さ南西側 $N70^{\circ} W$ ）をしている。第3調査区の北側と第4調査区の南西側の間には、前述のように幅10mの未発

掘地を挟んでいる。また第4調査区は東半部の広さに対し、西半部は狭長である。第4調査区への河床礫層は、やはり第3調査区と同様N70° Eの方向から南西側の中央へ流入し、ほぼ中央を直進し、北側の東寄りを経て、第5調査区の南東端に影響を及ぼしている。河床礫層の幅は2mで、表層は灰色砂質土層（左側～西）と汚れていない新しい砂礫層（小さい礫、右側～東）の2条に分けられる。その下部は、地層断面によると灰色土に埋められた側壁傾斜北東へ30°の谷状地形が見られる（挿図1）。またこの河床礫層の左右は褐色土層からなるが、右側（東）は汚れた礫（中・大）混じりの褐色、赤褐色ローム質土が目立つ。谷状地形はこの土層を侵食し、下底に中・細礫（20cm）を堆積している。これらを埋めた灰色砂質土は、谷状地形の端で6cm、内部では40cmを超える。表土からの深さは1mに達すると考えられる。第4調査区の西端には、これとは別にさらに顕著な河床礫の多量の堆積が見られる。厚さ2m、幅2m以上の巨・大・中の新河床礫で、大きな砂礫溜と見られる。周辺が未発掘でその全貌は見られないが、第3・4・5調査区及びその周辺に影響を及ぼした相当な規模の氾濫・河床だったと考えられる。

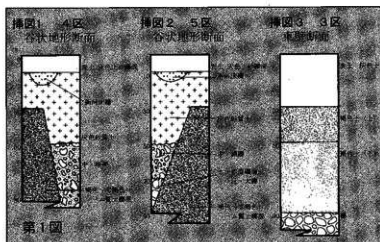
第5調査区は第4調査区の北側にあり、ほぼ四角形である。南西端より、やはりN70° Eを示す河床礫層が中央右寄りを流れ北東隅に至っている。表層の幅は6m前後、左側（北西）に幅3.2mの灰色砂質土層、右側（南東）に汚れていない新しい砂礫層（小さい礫）の2条に分けることは、第4調査区の河床砂礫層に類似している。その下部を地層断面で見ると、灰色砂質土層（10～50cm）及び細・中礫層（20～40cm）、巨・大・中礫混じりの土砂礫層（一部互層）に埋められた側壁傾斜南東へ40°の谷状地形が認められる。（挿図2）左右に発達した褐色礫混じり（汚れた大・中・巨礫）ローム質土を侵食し下部に厚い土砂礫層を堆積しているところは、第4調査区の場合と同じである。谷の深さはやはり表土から1mを超える。

<第3・4・5調査区の関係> 第3・4・5調査区の間には、それぞれ10m・3m幅の未発掘地がある。更に上流に当たる周辺には河床礫の溜りや分布が広く見られるが、これも未発掘地のため十分な観察が出来ていない。恐らく各区で発見された河床礫層は、現河床でいえば鎮川野尻橋付近からの氾濫あるいは河床と考えられる。発掘地ではいずれも並行した河床であるが、前記の砂礫溜の存在からみると、もっと複雑なものと考えられる。現に第3調査区の河床礫層の末端はN40° Wで未発掘地に消えるが、曲流して第4調査区の河床礫層につながったり、砂礫溜に吸収された可能性も出てくる。更に第4・5調査区でそれぞれ発見された谷状地形は、侵食された土層や埋積土層の状態から、第4調査区側を南東の縁、第5調査区側を北西の縁とした一つの大きな谷（幅10m）とも考えられる。すなわち褐色～赤褐色礫混じり土層を侵食して出来た谷状地形は、再堆積に移り土砂礫混じり層や中・細礫層、さらに灰色砂質土層の堆積を受けた。その後、表面を削って新河床礫層（小砂礫）の浸入を受けたと見られる。しかし、発掘が十分でない現在は、第4・5調査地区それぞれの谷状地形と埋積層を侵食した新河床礫層の存在に留めておきたい。

(3) 地形の形成と遺跡

今回の発掘では遺物の出土が少なかったため、時代的な過程を考察することは出来なかった。地形の形成順を示す次の通りである。

- ① 基底礫層
- ② 褐色～赤褐色ローム質土層・同礫混じり土層・河床礫層（以上同時異相かそれに近い）
- ③ 侵食による谷状地形の形成
- ④ 谷状地形への再堆積砂礫土層灰色土層
- ⑤ 新河床礫の浸入・堆積 ⑥ 表層の成立



2. 歴史的環境

今井地区は鎖川中流域にあり、松本市の南西に位置する。鎖川は右岸に多くの小段丘をつくっており、今井北耕地遺跡もその一段丘上にある。

本地区の遺跡を概観してみると、これまでは昭和46年に調査されたこぶし畑遺跡(4)が本格的に調査が行われた唯一の例であった。調査の結果、縄紋時代の土器片と線刻のある石を採集、集石と思われる遺構を検出した。また、弥生・奈良・平安各時代の住居址と土師器、須恵器、灰軸陶器、中世の墓2基、黒軸天目茶碗片、石臼も出土、長期間に亘っての複合遺跡であることが推測された。

このようにこれまででは、発掘調査による資料が乏しかった今井地区であったが、ここ2・3年、本格的調査が相次いだ。川西開田遺跡(13)・境窪遺跡(12)・今井北耕地1次(1)・今井新田原遺跡(▲)が、その例である。まず、川西開田遺跡は3回に亘って調査が行われ、平安時代の住居址16軒、掘立柱建物址2軒を発見。地区北東を流れる三間沢川をとりまく小集落の一つと推測された。遺物も貴重なものが多く、古墳時代前期の甕などの破片・延喜通宝・馬具・緑釉陶器が多量に出土した。特に古墳時代前期の土器片はこの地区において、初めて発見された遺物で、今井地区にも該期の遺跡が存在することが判明した。また、本格的な調査はできなかったが、採集された遺物、トレンチ調査の結果、当地区の下層には縄紋時代中期中葉から後葉の集落跡の存在も推測できた。次の境窪遺跡では弥生時代中期前半の一集落の全容を調査出来た意義は大きく、住居址・掘立柱建物址・墓の配置など集落の在り方を知る上で好資料であった。今井北耕地1次調査では、平安時代の住居址2軒と掘立柱建物1棟の調査を行い、縄紋時代の石器も採集した。今井新田原遺跡では、近世の豪農の屋敷跡が発見された。

尚、上記の発掘調査以外に、開発工事の折、遺物の採集・遺構の一部が発見されている。主なものを時代別に概観するに、旧石器時代の尖頭器・ナイフが、上新田原遺跡(3)、古池原遺跡(2)、東耕地地籍の合戦場の3地点から出土した。

縄紋時代では、右岸の北耕地遺跡の市場方、東耕地地籍、諏訪神社(地区東中央)、上新田原遺跡(3)、堂村・中沢・中村地籍一帯、左岸の野口地籍より、石斧・石皿・石鎌、そして土器も採集された。時期は中期から後期である。特に堂村では中期の住居址が発見された。

弥生時代の遺物は、中期の鉢が出土した野尻地籍、右岸の北耕地遺跡(8)、上新田遺跡等、採集例は少ない。

古代になると、南耕地遺跡から、須恵器、灰軸陶器、さらに双面硯が出土している。双面硯は松本平で唯一の出土例であり、大変貴重である。その他、弥生板上遺跡(5)[註]からも遺物が採集されている。

[註]「弥生土器」の発見でその地名にもなった弥生板上遺跡であるが、後世の研究により土器は古代のものであることが判明している。

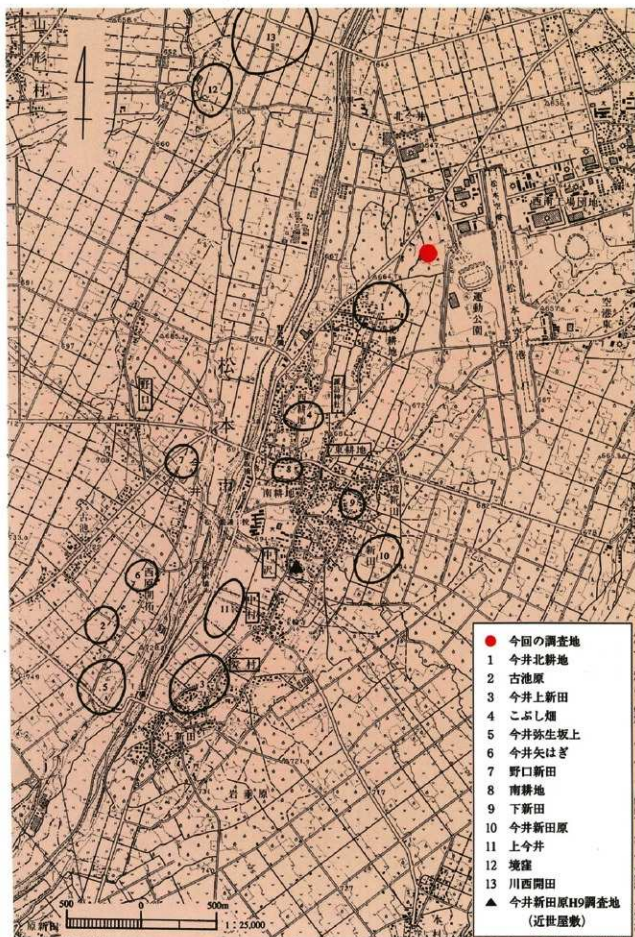
<引用参考文献>

松本市1994 『松本市史第4巻旧市町村編Ⅱ』

東筑摩郡・松本市・塩尻市郷土資料編纂会1973 『東筑摩郡・松本市・塩尻市誌第二巻歴史上』

松本市教育委員会1974 『松本市今井こぶし畑遺跡緊急発掘調査概要』

今井地区誌編纂会1993 『今井地区誌』



第2図 周辺遺跡

Ⅲ.調査の結果

1.概要

(1) 調査区

今回の調査地は松本市今井地区のはほぼ中央に位置する。今井北耕地では、これまで平成7年9月に今回の調査地より南西へ約500mの地点で第1次調査が行われており、今回が第2次調査となる。面積12000㎡のうち、平成7年12月の試掘調査に基づき良好な面を中心に調査地区を設定、調査地を5地区に分け調査を行った。調査面積は1区から5区、各約360、480、1300、400、400㎡の計3340㎡であった。

(2) 調査方法

調査にあたって掘り下げは、まず、バックホーを使用し、耕作土と基盤土を除去。その後、手作業で細かな検出を行った。検出面は現地表面から0.5～0.6m下、黄褐色の良好な面であった。

また、測量については、調査区に任意の基準点をもうけ、磁北を基軸として調査地内に3m四方の方眼を設定、測量を行った。

尚、遺構番号については第1次調査の続き番号を使用した。

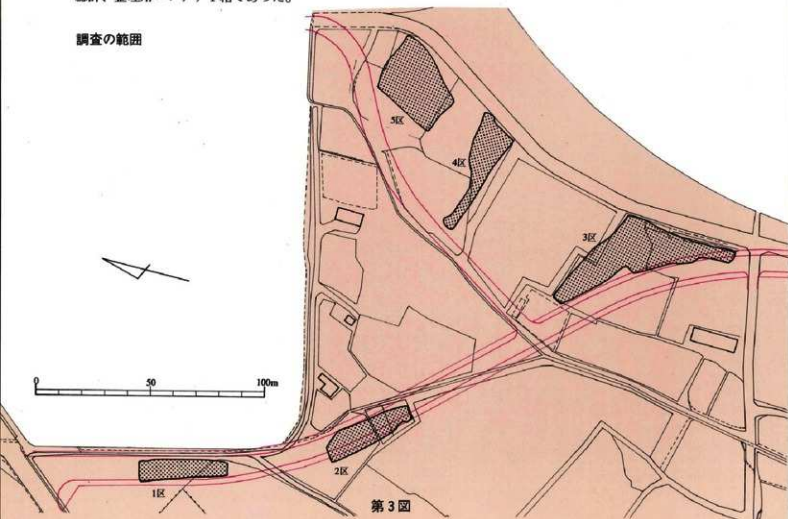
(3) 遺構

土坑・ピット約90基、溝3条。

(4) 遺物

点数はあまり多くない。縄紋土器片が約50点、須恵器片が1点、石器が9点、その他は近・現代の廃棄物。総計、整理用コンテナ1箱であった。

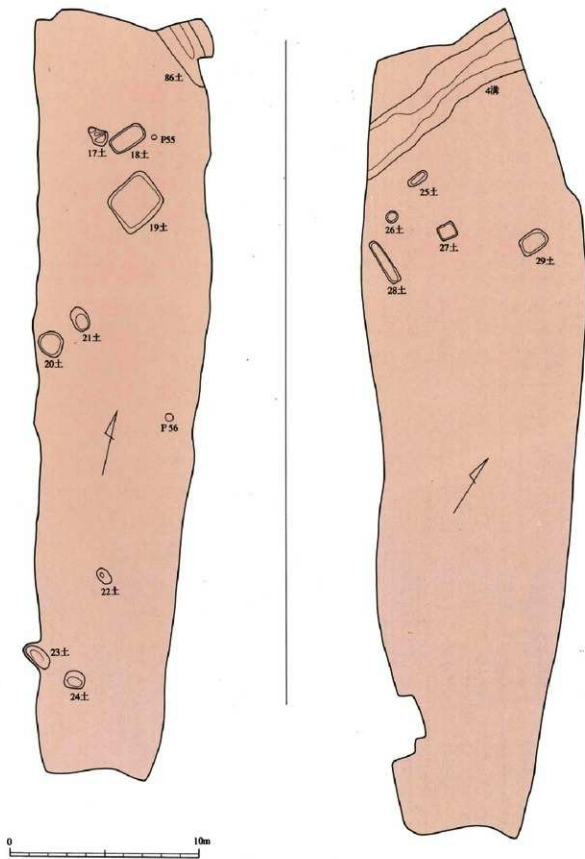
調査の範囲



第3図

第1調査区

第2調査区



第4図

2. 遺構

(1) 土坑・ピット

5地区合わせて、土坑70基、ピット19基を検出した。出土遺物が皆無なため、時期・用途が確定出来なかった遺構、バックホーの爪痕が残る新しい時代の遺構も数多くあった。そうしたなか、ここでは出土遺物より時期が確定したもののみ記す。時期は概ね縄紋時代と近・現代の二つの時期を想定することができる。

まず、縄紋時代であるが、1区の3基の土坑が該期のものと考えられる。

第17号土坑

第1調査区北側に位置する。平面形状は台形。

覆土：2層に分かれる。I層は焼土、炭化物を含む暗褐色土。II層は黒褐色土。

出土遺物：縄紋時代後期の土器片が8点、打斧が1点出土した。

第22号土坑

第1調査区南側に位置する。平面形状は長方形。

覆土：2層に分けられる。I層は黄褐色土、II層は黒褐色土。

出土遺物：縄紋時代晩期の土器片が10点出土。

第23号土坑

第1調査区南側に位置する。平面形状は長方形。

覆土：2層に分けられる。I層は黒褐色土、II層は焼土を含んだ灰褐色土。

出土遺物：縄紋時代晩期の深鉢、甕の破片が、20片ほど出土した。この遺構は今遺跡中、縄紋時代の遺物が最も多く出土した土坑。残念ながら、調査区の西に、調査が及ばず、詳細は調査できなかったが、今遺跡の近くに該期の遺跡の存在を伺わせる資料であった。

次に、近・現代の遺構である。こちらの遺構もその大半は第1区にあった。

第18号土坑

第1調査区北側に位置する。平面形状は長方形。

覆土：焼土、炭化物を含む黒褐色土。

出土遺物：羽釜の破片、ボルトなど近・現代の生活廃棄物が捨てられていた。

第19号土坑

第1調査区北側に位置する。平面形状は長方形。検出面より直に掘り込まれた近・現代の規模が大きなゴミ穴。

覆土：砂層、礫層の2層。焼土・炭化物、大礫を含む。

出土遺物：犬釘・西洋剃刀・カメラなどの当時の生活廃棄物が多量に廃棄されており、拳大から人頭大の礫も多量に廃棄されていた。

第20号土坑

第1調査区中央部に位置する。平面形状は円形。検出面から緩やかに掘り込まれている。底部は黄褐色土の硬質な面である。

覆土：砂層。

出土遺物：飯碗1個体分、羽釜、農具の羽、焼土を伴って動物（牛か？）の骨も捨てられていた。

第21号土坑

第1調査区中央部に位置し、上記の20号土坑に隣接している。平面形状は楕円形。21号と同じタイプであろうか？掘り方、底部も上記と同じである。ただ、焼土を伴った動物の骨が多量に廃棄してあった。

第86号土坑

第1調査区北西隅に位置する。当初、溝と想定して掘り下げを行ったが、北・南端でプランが確定し、長方形の平面形状を呈していた。検出面からやや緩やかに掘り込まれ、遺物は茶碗などの現代の遺物であった。

尚、第4調査区・第5調査区からは、風倒木痕といわれているロームマウンドも3基認められた。

(2) 溝状遺構

第4号溝状遺構

第2調査区北隅に位置する。古い鎖川の流れと平行、ローム層に丸く深く掘り込まれており、明らかに人工遺構である。検出面からの深さは約0.6m、幅は約3m、底部は船底形を呈している。底部に砂層が確認され、流路と推測される。掘り方と内耳鍋が出土したことより中世以前と考えたい。今井地区の開拓史に新しい資料となろう。

第5号溝状遺構

第3調査区北隅に位置する。検出面からの深さは約0.2m、幅は約0.6m、底部は船底形を呈している。出土遺物は縄紋時代前期土器片が8片ほど。調査区の西にも広がる可能性もあり、近くに該期の遺跡が想定できる。

3. 遺物

(1) 土器・陶磁器

上記のように、縄紋土器片が数片と、近・現代の陶磁器が数片出土した。

特に、縄紋時代晩期の土器片（写真1、2）が出土したことは、最近調査が進み、徐々に判明してきた松本平西部の縄紋時代晩期から弥生時代初頭の遺跡群の広がりが、この今井北耕地にも及んでいたことの現われであろうか。今井地区の原始時代を考える上で好資料である。

近・現代の陶磁器は、鉢・飯盛碗（写真4）・羽釜（写真5）など、当時の生活用具である。

(2) 石器

打製の石斧が2点、黒曜石の石鏃の未製品、スクレイパー、一部に加工痕がある剥片（写真3）が出土。上記の土器と同じく近くに縄紋時代の遺跡の存在を想定できる興味深い資料である。

(3) 鉄器

近・現代の農具の刃・犬釘など、生活用具の廃棄物である。

IV. 調査のまとめ

今回の調査では、住居址・建物址など集落址が想定できる遺構は皆無であったが、縄紋時代晩期末の遺構・遺物を僅かに発見、近くに該期の遺跡を想定することが出来る。このことは、境窟遺跡など最近、本格的な発掘調査が進み、徐々に明らかになりつつある松本平西部の縄紋時代晩期から弥生時代初頭の様相を考える上で、一資料になった。

また、第3区で検出した巨大な溝は、時期・用途の確定はできないが、古い鎖川の流れと平行に掘り込まれており、神林・今井地区の開拓史を考える上で貴重である。

また、近・現代のゴミ穴からは先の大戦中の生活用品と思われる遺物が多量に出土している。幾つかの文献資料、あるいは当時を知る人の話を参考にすると、今調査地に隣接して、先の大戦中昭和18年から昭和20年にかけて旧陸軍の飛行場が建設されたが、その工事に携わった人たちの生活跡の可能性もあろう。

以上のように今回の調査は、これまで比較的発掘調査が進んでいなかった今井地区の原始・中世・近代史を考える上で新しい資料を得ることが出来、貴重であった。



第1調査区全景



第2調査区全景



第3調査区全景



第4調査区全景



第5調査区全景



第4号沟状遗構完掘



第4号沟状遺構断面



第23号土坑遺物出土状況



第20号土坑遺物出土状況



第21号土坑遺物出土状況



1. 第23号土坑出土遺物



2. 第17号土坑出土遺物



3. 石器

4,5. 第20号土坑出土遺物





今井北耕地遺跡Ⅱ緊急発掘調査報告書抄録

ふりがな	ながのけんまつもとしまいきたこうちいせきんきゅうはくつちょうさほうこくしょ							
書名	長野県松本市今井北耕地Ⅱ緊急発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	松本市文化財調査報告							
シリーズ番号	No.131							
編著者名	村田昇司・太田守夫							
編集機関	松本市教育委員会							
所在地	〒390-0873 長野県松本市丸の内3番7号 (記録・資料保管:松本市立考古博物館・〒390-0823松本市中山3738-1・TEL.0263-86-4710)							
発行年月日	平成10(1998)年3月25日(平成9年度)							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
今井北耕地	長野県松本市今井	20202	450	36度 55分 10秒	137度 55分 10秒	19960513～ 19960619	3340㎡	県道松本広域公園 線道路工事に伴う 緊急発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
今井北耕地	敷布地	縄紋	土坑 溝	3基 1条	土器・石器	縄紋時代の遺物散布 地、調査区周辺に当 該期の遺跡が想定で きる好資料また、先 の大戦中の軍事施設 建築に関ったと思わ れる生活跡		
		中世	溝	1条	土器			
		近・現代	土坑	5基	陶磁器・金属製品・ガラス 製品・獣骨			



第5図 調査地の位置

松本市文化財調査報告 No.131
長野県松本市 今井北耕地遺跡Ⅱ

—緊急発掘調査報告書—

発行日 平成10年3月25日
発行者 松本市教育委員会
〒390-0873 松本市丸の内3番7号
印刷 精美堂印刷株式会社